

令和2年度事業報告書

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

令和3年 5月28日

学校法人 金蘭千里学園

1. 法人の概要

単位：名

項 目	高 等 学 校	中 学 校	備 考
設 置 する 学 校	金 蘭 千 里 高 等 学 校	金 蘭 千 里 中 学 校	
入 学 定 員	1 8 0	1 8 0	
在 校 生 徒 数	5 1 3	5 8 6	令和2年5月1日現在
教 職 員 数	5 4	5 9	令和2年5月1日現在

2. 事業の概要

・金蘭千里中学校、高等学校における事業の基本的な概要

事業計画に基づき、以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開した。

なお、事業計画時の概要において実施を予定した項目のうち、新型コロナウイルス感染症の流行により実施を見送ったものについては、次項に記載した。

男女共学 1学級30人

学習指導

○カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習

英語・数学・国語は、基礎科目として時間増

理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

○20分テスト

通常授業を重視し、月～金曜日に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や個別指導にフィードバックすることによる学力の向上、定着

生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

スポーツ

○校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、6年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

○他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、男子バレーボール、女子サッカーを選択履修

国際理解／キャリア教育

○「日常」と「異文化」の相対化と「体験」による「知識」の裏付けによる「弾力的国際人」を育成するためのカリキュラム

○中高6年間の発達段階と生徒の個性と能力に応じた進路指導のため、外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導

・ネイティブ・スピーカーである教員による英語指導

・外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演

・本校卒業生による進路決定に至る体験の講演

・職業選択に至るプロセスに関する講義や、医療従事者、起業家等の専門家を招いた講演

情操教育

○音楽鑑賞

国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施

□情報教育

整備されたICT環境を活用し、eメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助に資することとどまらず、情報化社会に対応する情報処理モラルの涵養

□自主性の涵養

○クラブ活動の充実を図ることにより生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成

○文化祭、体育祭の運営を通じ独創性と自発性の涵養

・新型コロナウイルス感染症流行に関する対応、対策及び、事業の変更等

□令和2年4月・5月の政府、自治体による休校要請等への対応

- ・年度当初の教科書等配布を、全学年に対して宅配便等により行った。
- ・原則として、すべての授業を年初の時間割通りにオンライン授業で実施した。
- ・中学校1年生の家庭におけるインターネット環境の確認を行い、自宅でのオンライン授業の実施に必要なタブレットの貸し出しなど、家庭におけるIT環境の整備を行った。
- ・教員が在宅でオンライン授業を実施する際に必要なIT関連物品の購入、貸与を行った。
- ・政府による出勤者抑制の要請に対応し、教職員の在宅勤務を実施した。

□感染症対策及び学校再開（令和2年6月）以後の学校運営の概要

- ・日本私立中学校高等学校連合会の斡旋によるマスクの早期確保、検温器の導入、消毒液の備蓄、食堂へのパーテーション設置など、感染症予防対策用品を確保した。
- ・生徒の感染防止策として、登校前の検温実施と検温結果の記録及びその確認、マスク着用や手指消毒など基本的な感染症対策の徹底、昼食時の教員による見回りなどを実施した。
- ・教職員の検温及び検温結果の記録の徹底、外来者への検温などを実施した。
- ・行事の実施については、大阪府教育庁私学課のガイドラインを基に、教育効果と感染リスクを慎重に判断し、収容定員の多い会場の確保、外来者の制限などの対策を講じた上で可能な範囲で実施するとともに、一部行事については中止又は規模を縮小の上実施した。

□事業計画において予定していたもののうち、実施を見送った行事等

- ・通常授業時間数確保のため、夏季・冬季・春季長期休業期間における特別授業を中止し、通常授業に振り替えた。
- ・進路指導の一環で能楽、狂言、茶事、落語といった日本の伝統文化体験等を目的として予定していた校外学習は、府県をまたがる移動の制限などにより、一部を除き中止した。
- ・宿泊を伴うキャンプ及び自然研修は、感染リスクが高いと判断し、中止した。
- ・徒歩訓練は、マスク着用下での実施が困難と判断し、中止した。
- ・民族学博物館の見学は、受け入れ機関の意向を受け、中止した。
- ・合唱際は、感染対策が困難と判断し、中止した
- ・イギリス海外研修は、受け入れ機関の意向及び渡航困難のため中止した。

・当年度における主な事業計画

□ICT環境の整備及び更新

- Windows7のサポートが終了することに伴い、OSをWindows10へ更新すると共に、更新時期を迎えたPC教室並びに教員用PCの機器更新を行う。
- 老朽化した事務用LANをOSのWindows10への更新と併せて機器更新を行い、システムの安全性と作業性の向上を図る。

□校舎施設設備の更新

- 平成17年築の現校舎において、設備更新の時期を迎える設備の更新を今年度より順次行う。今年度においては1、2階部分の空調設備の更新を行う。

□校舎新館（仮称）建設にむけた諸準備の実施

- 校舎新館の建設に関し、総工費の算出や工期の確定に向け、地質確認のためのボーリング調査、土壌の確認調査を始めとした諸準備を行い、予算及び竣工時期の確定に向けた具体的な検討を進める。

・当該計画の進捗状況

□ICT環境の整備及び更新

- ・PC教室の更新工事により、OSのWindows10への更新及び陳腐化したサーバ、クライアント用PCの更新を実施した。また教員用タブレットを増強し、学内におけるICT化の充実を図るとともに、再度休校等が必要となった場合のオンライン授業への対応力を高めた。
- ・事務用LANの更新については、会計・給与・学費システムの更新時期との調整が必要となり、令和3年度の実施へ延期することとした。

□校舎施設設備の更新

- ・校舎1、2階の電力空調システムの一部の更新を実施した。
- ・令和3年度に空調機器の大半を占める都市ガス空調システムの更新に向け、工事内容や業者選定の前提となる現地調査などの準備作業を実施した。

□校舎新館（仮称）建設にむけた諸準備の実施

- ・建設予定地（東側駐車場敷地）のボーリング調査を実施し、地質状況を把握の上、建設費用の検討を行った。その結果、地質の状況による基礎工事費用の増大や建築関連費用の高騰等を受け建設費用が当初の想定を上回ることとなったため、業者選定等今後の建設計画について、次年度以降引き続き検討を進めることとした。

以上